



ヘルマン・シュパンゲンベルク German Spangenberg

オーストラリア ビクトリア州一次産業省 バイオサイエンス研究局 エグゼクティブディレクター

植物バイオテクノロジーセンター所長
ラ・トロープ大学 植物学部 教授

ドイツのハイデルベルク大学および同市にあるマックス・プランク細胞生物学研究所で博士号を取得。その後は、マックス・プランク細胞生物学研究所、ならびにスイス、チューリッヒにあるスイス連邦工科大学（ETH）の植物科学研究所にて研究を続け、後にスイス連邦工科大学の助教授および准教授を務める。1995年、オーストラリアに移り、ビクトリア州一次産業省付属の植物バイオテクノロジーセンターを設立。

オーストラリア分子植物育種共同研究センターの主任科学者と研究責任者を兼任し、ビクトリア州農業生物科学センターの会長を務める。

また、ビクトリア州のマイクロアレイ技術学会、バイオインフォマティクス学会および農産食品向け植物機能ゲノム学センターを主導しながら、これら学会の理事を務める。

一次産業省に勤務するかたわら、植物バイオテクノロジーセンターから分離したバイオテクノロジー系子会社である Phytogene Pty. Ltd. の取締役兼最高科学責任者を務める。また、オーストラリア初の農業ゲノム分野のサービス企業 AgGenomics Pty. Ltd. の取締役（研究開発担当）、および Gramina Pty Ltd. の最高科学責任者でもある。

シュパンゲンベルク教授は、「牧草ゲノムとバイオテクノロジーにおける世界的革新と、こうした革新を市場に紹介することで、より広い社会と世界中の温帯草地農業に恩恵をもたらそうとする指導的役割」を評価され、Australian Thinker of Year 2006 Award（オーストラリア有識者賞）を受賞。

2007年、「農業バイオテクノロジーにおける画期的かつ革新的な研究と、牧草ゲノムおよび遺伝子工学の世界的指導者であること」が評価され、オーストラリア理工学アカデミーの会員に選出される。